

プロジェクト管理ツール

Lychee Redmine 活用ガイド



Neoバックログを使った アジャイル開発

スクラムの流れをLychee Redmineでまわす方法



©2026 Agileware Inc. All Rights Reserved



Neoバックログとは

「Neoバックログ」は、プロダクトバックログの管理・スプリントプランニングをサポートする機能です。

タスクの優先順位を並び替えるだけで、チームの実績ペースに基づき「いつ頃どこまで届けられるか」の見通しを自動で再計算します。

計画調整の手間を減らすことで、本来の目的である「価値ある製品づくり」に集中できる環境づくりを支援します。



Neoバックログの特長

1

スプリント計画を
現実的に立てられる



バックログの並び替えに応じて、チームの作業ペースをもとにスプリント計画を自動で更新。「いつ頃どこまで進めるか」を現実的に見通すことができます。

2

管理作業ではなく
価値の議論に集中できる



バックログ整理やスプリント計画の調整に追われることなく、チームが「次に届けるべき価値」を考え続けられる環境をつくります。

3

一部のチームから
アジャイルを実践できる



ガントチャートによる進捗管理とアジャイル開発を同じ環境で併用も可能です。まず一部のチームでアジャイル開発を始めて、段階的に広げていくことが可能です。

Neoバックログの主な機能

1. 自動スプリント計画により優先順位の並び替えに集中できる

チームの実力（平均ベロシティ）を元に、
バックログアイテムの並び替えと連動して各スプリントの割り当てを自動で再計算します。
バックログアイテムの優先順位を変えるたびに、
「プロダクトのロードマップやリリースまでのスケジュールを見直す」という作業から解放されます。

↑ 終了スプリントを表示

3/18-3/31

共有された写真を見てみんなでわいわいできる

6pt

3 pt

閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。

写真を共有してつながれる

● 進行中 >

3 pt

投稿者として、コメントやいいねがついたら通知がほしい。なぜなら、見た人の反応に気づきたいから。

大切な更新を見逃さない

4/1-4/14

9pt

大量の写真...

8 pt

閲覧者として、写真を日付で自動グループ化してほしい。なぜなら、手動で整理しなくても時系列で振り返りたいから。

写真をアップロード・整理して振り返れる

1 pt

閲覧者として、写真にいいねをつけたい。なぜなら、お気に入りの写真を気軽にリアクションしたいから。

写真を共有してつながれる

↑ 終了スプリントを表示

3/18-3/31

共有された写真を見てみんなでわいわいできる

7pt

3 pt

閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。

写真を共有してつながれる

● 進行中 >

1 pt

閲覧者として、写真にいいねをつけたい。なぜなら、お気に入りの写真を気軽にリアクションしたいから。

写真を共有してつながれる

新規 >

3 pt

投稿者として、コメントやいいねがついたら通知がほしい。なぜなら、見た人の反応に気づきたいから。

大切な更新を見逃さない

新規 >

4/1-4/14

13pt

大量の写真...

8 pt

閲覧者として、写真を日付で自動グループ化してほしい。なぜなら、手動で整理しなくても時系列で振り返りたいから。

写真をアップロード・整理して振り返れる

新規 >

2. 「一画面完結」で「操作がサクサク」の心地よい操作性

プランニングイベントやデイリーミーティングにおいて、ツールの画面を切り替える時間は、チームの思考や会話を止めてしまう要因になります。
すべての操作が一画面で完結する「ストレスフリーな操作感」を追求しました。



3. スプリントゴールを常に可視化

日々たくさんのタスクに向き合っていると、「チケットを終わらせること」が目的になり、
本来届けたかった価値を見失ってしまうことがあります。
スプリントの目的である「ゴール」を画面上部に常時表示、
今取り組んでいる作業がどの価値につながっているのかを、全員がいつでも確認できます。

↑ 終了スプリントを表示

3/18-3/31 共有された写真を見てみんなでわいわいできる
7pt

3 pt

閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。
写真を共有してつながれる

1 pt

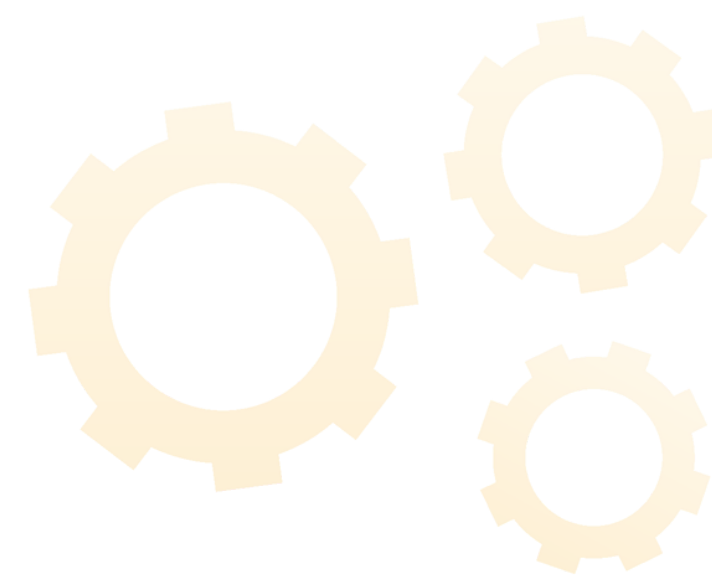
閲覧者として、写真にいいねをつけたい。なぜなら、お気に入りの写真を気軽にリアクションしたいから。
写真を共有してつながれる

3 pt

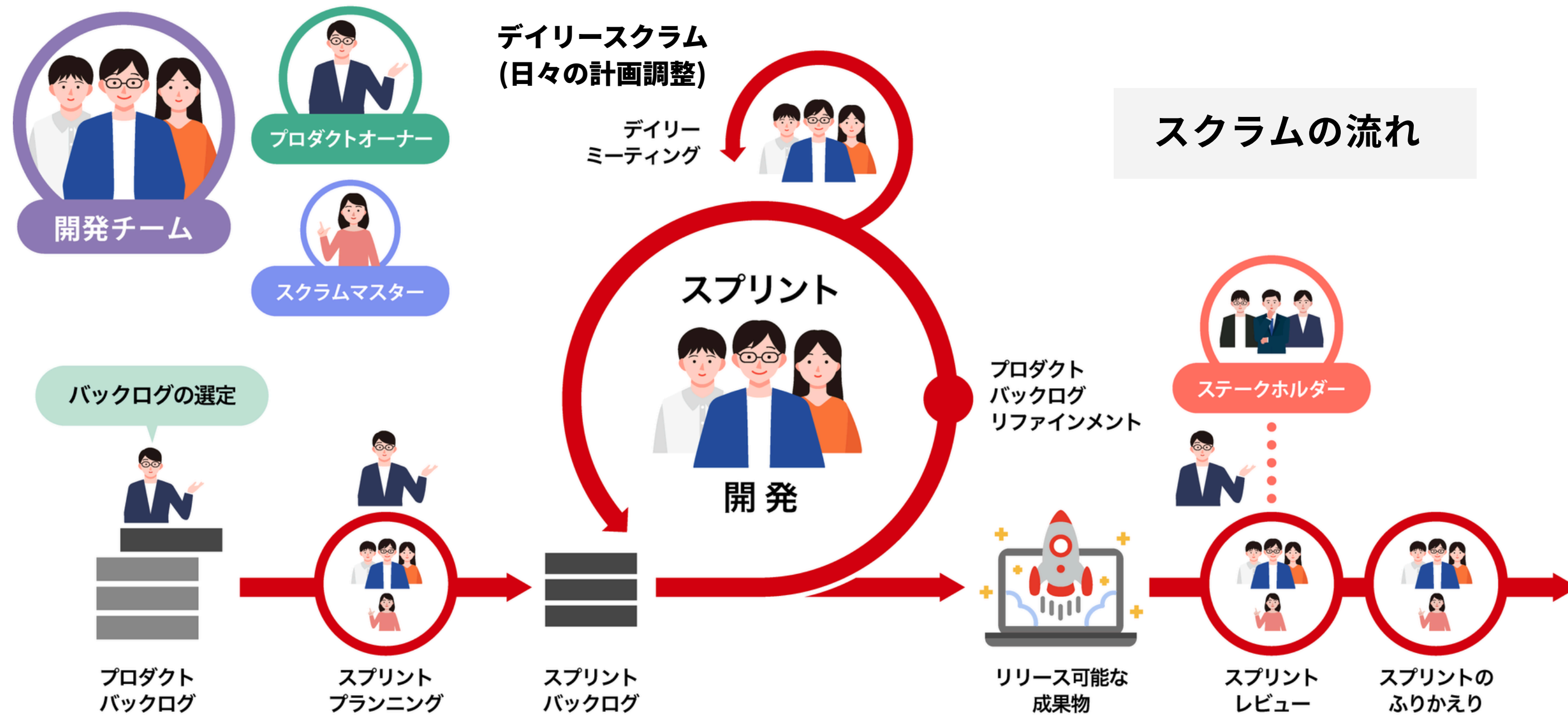
投稿者として、コメントやいいねがついたら通知がほしい。なぜなら、見た人の反応に気づきたいから。
大切な更新を見逃さない



Neoバックログを使った アジャイル開発



はじめに



■ Neoバックログはプロダクトバックログの管理とスプリントプランニングを中心にサポートします。

スクラムの流れとNeoバックログの関わり

プロダクトバックログ管理で役立つ機能

PBIの作成・並べ替え・見積もり・リファインメント／タグによるカテゴライズ

スプリントプランニングで役立つ機能

平均ベロシティを参考にPBIをスプリントへ自動割り当て／スプリントゴールの設定

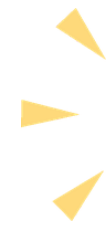
スプリント実行で役立つ機能（補助的に活用）

スプリントゴールの確認／ステータス変更で進捗を可視化／詳細パネルで情報を更新

スプリントレビュー／レトロスペクティブで役立つ機能（補助的に活用）

過去スプリントのふりかえり／ベロシティ推移の確認

スクラム実践の流れ



STEP.1

プロダクトバックログを作る・育てる

STEP.2

スプリントプランニング

STEP.3

スプリント中の運用

STEP.4

スプリントレビュー

STEP.5

レトロスペクティブ

STEP.6

次のスプリントプランニングへ



プロダクトバックログとは

プロダクトバックログは、プロダクトに必要な作業の一覧であり、プロダクトオーナー（PO）が最終的な責任を持って管理します。プロダクトバックログは1つ以上のPBI（プロダクトバックログアイテム）からなります。

↑ 終了スプリントを表示

3/18-3/31 大量の写真の中からお気に入りの写真を探し出せる
7pt

3 pt 閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。
写真を共有してつながれる 新規 >

1 pt 閲覧者として、写真にいいねをつけたい。なぜなら、お気に入りの写真を気軽にリアクションしたいから。
写真を共有してつながれる 新規 >

3 pt 投稿者として、コメントやいいねがついたら通知がほしい。なぜなら、見た人の反応に気づきたいから。
大切な更新を見逃さない 新規 >

4/1 13pt + 追加 閲覧者として、写真を日付で自動グループ化してほしい。なぜなら、手動で整理しなくても時系列で振り返りたいから。
写真をアップロード・整理して振り返れる 新規 >

5 pt アルバムを作成して写真を整理したい。なぜなら、「2026年 運動会」のようにイベントごとにまとめたいから。
写真をアップロード・整理して振り返れる 新規 >

上から順に着手する

プロダクトバックログ

PBI

- 上位のPBIは具体的ですぐに着手できる状態にしておきましょう。
- 下位のPBIは粒度が粗かったりアイデア段階のものでもかまいません。

PBI（プロダクトバックログアイテム）を登録する

Opt

+ゴールを追加

ここにドラッグ&ドロップ

Opt

以降のスプリント

ここにドラッグ&ドロップ

チケットの題名を入力 (Enter: 作成, Esc: キャンセル)

タイトルを入力するだけで
PBIが作成できる

- pt

閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。

新規

>

- pt

投稿者として、コメントやいいねがついたら通知がほしい。なぜなら、見た人の反応に気づきたいから。

新規

>

■ 良いPBIの書き方

PBIは「ユーザーストーリー」の形式で書くと、誰のために何をするのかが明確になります。

例)

管理者として、システム上で
月次レポートを見たい。
なぜなら、月次報告のたびに色々なデータを
かき集めるのに時間がかかるから。



書式のテンプレート	
〈誰〉として	〈理由〉なぜなら
〈何を〉したい	

タグでカテゴライズする

タグは、複数のPBIを横断してグループ化する仕組みです。「エピック」や「テーマ」の代わりとして使えます。



■ 活用例

機能領域で分類	「認証」「決済」「レポート」
ビジネス目標で分類	「ユーザー獲得」「リテンション改善」
技術的な分類	「技術的負債」「インフラ」

詳細情報を記録する

ユーザーストーリーをベースに、実行する際に具体的にどんな作業を行うか、チームで認識をそろえていきましょう。

- pt

閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。

新規

写真を共有して繋がれる

- pt

閲覧者として、写真を日付で自動グループ化してほしい。なぜなら、手動で整理しなくても時系列で振り返りたいから。

新規

写真をアップロード・整理して振り返れる

- pt

閲覧者として、写真にいいねをつけたい。なぜなら、気軽にリアクションしたいから。

新規

写真を共有して繋がれる

- pt

投稿者として、コメントやいいねがついたら通知見た人の反応に気づきたいから。

新規

大切な更新を見逃さない

- pt

投稿者として、失敗した写真を削除したい。なぜなら、ブレた写真や不要な写真を整理したいから。

新規

#3254

×

Esc

閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。

トラッカー

機能

ステータス

新規

タグ

写真を共有して繋がれる ×

説明

共有写真にテキストコメントを投稿できる機能。

チェックリスト

☑

写真に対してコメントを投稿できる

☑

コメントの編集・削除ができる（自分のコメントのみ）

☑

コメントは時系列で表示される

☑

絵文字入力に対応

作業に必要な情報

サブタスクや完了の条件を記入



ストーリーポイントで見積もる

各PBIのポイント欄をクリックして、ストーリーポイントを入力します（0～999.99）。

ストーリーポイント

3 pt	閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。
写真共有ボタン	写真を共有して繋がれる
1 pt	閲覧者として、写真にいいねをつけたい。なぜなら、お気に入りの写真を気軽にリアクションしたいから。
写真共有ボタン	写真を共有して繋がれる

■ ストーリーポイントとは？

ストーリーポイントは作業の「相対的な大きさ」を表します。

工数（○時間）ではなく、「このPBIは基準のPBIと比べてどれくらい大きいか（または小さいか）」で見積もります。

数が大きくなるほど不確実性も大きいことを表現しています。よく使われるのはフィボナッチ数列（1, 2, 3, 5, 8, 13...）です。

優先順位を並べ替える



ドラッグ＆ドロップでPBIの順番を変更できます。上にあるものほど優先順位が高いというルールです。

3 pt	閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。	新規 >
3 pt	投稿者として、コメントやいいねがついたら通知がほしい。なぜなら、見た人の反応に気づきたいから。	新規 >
1 pt	閲覧者として、写真にいいねをつけたい。なぜなら、お気に入りの写真を気軽にリアクションしたいから。	新規 >
8 pt	閲覧者として、写真を日付で自動グループ化してほしい。なぜなら、手 DRAG & DROP! で振り返りたいから。	新規 >

■ 並び替えの基準はPOが判断しますが、一般的には以下を考慮します。

- ビジネス価値が高いか
- リスクや不確実性が高く、早めに検証すべきか
- 他のPBIの前提条件になっているか

スクラム実践の流れ

STEP.1

プロダクトバックログを作る・育てる

STEP.2

スプリントプランニング

STEP.3

スプリント中の運用

STEP.4

スプリントレビュー

STEP.5

レトロスペクティブ

STEP.6

次のスプリントプランニングへ



スプリントゴール案を準備する

スプリントプランニングは、スプリントの最初に行う、このスプリントで何をやるか決めるイベントです。スプリントプランニングの前に、POはスプリントゴールの案を考えておきましょう。

3/18-3/31
15pt

スプリントゴールを設定しよう！

閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。

CLICK! 写真を共有して繋がれる

3/18-3/31
7pt

共有された写真を見てみんなでわいわいする

3 pt 閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。

写真を共有して繋がれる

■ スプリントゴールとは、そのスプリントで達成したい目的を言語化したものです。

スプリントゴールとは、そのスプリントで達成したい目的を言語化したものです。

個別のPBIの羅列ではなく、「このスプリントが終わったとき、何が実現されているか」を表現します。

例) 「ユーザー登録からログインまでの基本フローが動作する状態にする」

ゴールに沿って並べ替え・見積もりでスプリントを埋める

ゴール案をもとに、プロダクトバックログのPBIを並べ替えます。

優先順位を並べ替える（ドラッグ&ドロップ）

ストーリーポイントを見積もる（クリックで入力）



この2つが揃ったPBIは、
各スプリントのベロシティに応じて自動的にスプリントへ配置される

■ Neoバックログは、直近3スプリントの完了ポイント（ベロシティ）の平均を自動算出します。

チームの平均ベロシティを超えるPBIは次のスプリントに移動されます。

チームでの議論の結果、特定のPBIをスプリントに置きたい場合は、優先順位を並び替えるか、分割してそのスプリントに入るサイズに変更してください。

ゴールに沿って並べ替え・見積もりでスプリントを埋める

まだ実績がない場合は最初のスプリントを実施します。完了したポイントをベースに以降のスプリントの容量が決まります。ポイントが未入力のパビは以降のスプリントに入ったままになるため、スプリントプランニング前に上位のパビから見積もりを済ませておくことが大切です。

↑ 終了スプリントを表示

3/18-3/31 共有された写真を見てみんなでわいわいできる 7pt

2 このスプリントのポイント合計 13ptを超えるとPBIが次のスプリントに移動する

1 チームのベロシティは13pt (例)

ベロシティ: 13pt

1 pt 閲覧者として、写真にいいねをつけたい。なぜなら、お気に入りの写真を気軽にリアクションしたいから。 新規 >

3 pt 投稿者として、コメントやいいねがついたら通知がほしい。なぜなら、見た人の反応に気づきたいから。 新規 >

4/1-4/14 13pt 大量の写真... 8 pt 閲覧者として、写真を日付で自動グループ化してほしい。なぜなら、手動で整理しなくても時系列で振り返りたいから。 新規 >

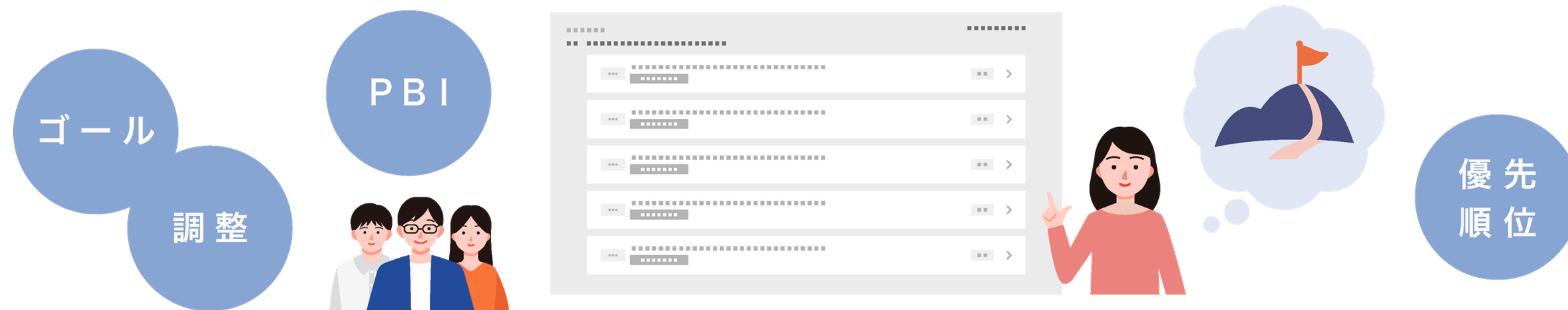
3 このチケットを上のスプリントに入れたい場合は 2番目以上に並び替えるかポイントが小さくなるよう分割が必要

■ ベロシティは参考値として使う

ベロシティを目標やノルマと捉えようと、チームにプレッシャーを与え、見積もりのインフレを招きます。ベロシティが安定してくるのは通常5～6スプリント後です。目安として柔軟に扱ってください。

スプリントゴールを調整する

実際にスプリントに入ったPBIを見て、ゴールを最終調整します。はみ出たPBIがある場合、当初のゴール案を現実に合わせて調整しましょう。ゴールがあることで、スプリント中に予想外の問題が起きたとき、何を優先し何を諦めるかの判断基準になります。



■ スプリントゴールの達成と全PBIの完了、どちらを優先する？

もしもゴール達成が危うい状況なら、スプリントゴールの達成を優先します。スプリントに入れたPBIはあくまで「ゴールを達成するための計画」であり、全てをこなすことが目的ではありません。予定通りに進まない場合、チームはPOと相談し、ゴールに直結するPBIに集中したり、PBIを分割し、それ以外はスコープから外すことを検討しましょう。

スクラム実践の流れ

STEP.1

プロダクトバックログを作る・育てる

STEP.2

スプリントプランニング

STEP.3

スプリント中の運用

STEP.4

スプリントレビュー

STEP.5

レトロスペクティブ

STEP.6

次のスプリントプランニングへ



ステータスを更新する

スプリントが始まったら、スプリントバックログの日々の状況を更新します。
ステータスはアイテムリストで確認できます。

↑ 終了スプリントを表示 ベロシティ：13pt 🔍 ⚙️

3/18-3/31 共有された写真を見てみんなでわいわいできる
7pt

3 pt

閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。

写真を共有してつながれる

新規 >

1 pt

閲覧者として、写真にいいねをつけたい。なぜなら、気に入りの写真を気軽にリアクションしたいから。

写真を共有してつながれる

新規 >

3 pt

投稿者として、コメントやいいねがついたら通知がほしい。なぜなら、見た人の反応に気づきたいから。

大切な更新を見逃さない

新規 >

#6237 X Es

閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。

トラッカー 機能

ステータス

新規

タグ

検索...

説明

新規

共有写真にテ

進行中

解決

フィードバック

チェックリスト

終了

却下



情報を更新する

サブタスクや完了の条件で完了したものにはチェックリストにチェックを入れ、コメントには、作業中の気づきや変更の履歴を書きましょう。

スクリーンショットは、開発管理ツールの「スプリントバックログ」画面を示しています。左側のリストには、タスクとそのポイント、ステータス、アクションが記載されています。

タスク	ポイント	ステータス	アクション
閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。	3 pt	進行中	写真を共有してつながれる
閲覧者として、写真にいいねをつけたい。なぜなら、お気に入りの写真を気軽にリアクションしたいから。	1 pt	新規	写真を共有してつながれる
投稿者として、コメントやいいねがついたら通知がほしい。なぜなら、見た人の反応に気づきたいから。	3 pt	新規	大切な更新を見逃さない
閲覧者として、写真を日付で自動グループ化してほしい。ら、手動で整理しなくても時系列で振り返りたいから。	8 pt	新規	写真をアップロード・整理して振り返る
アルバムを作成して写真を整理したい。なぜなら、「2026年 運動会」のようにイベントごとにまとめたいから。	5 pt		写真をアップロード・整理して振り返る

右側の詳細画面では、タスク #6237 の内容が示されています。

タスク #6237
閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。

トラッカー: 機能
ステータス: 進行中
タグ: 写真を共有してつながれる ×
説明: 共有写真にテキストコメントを投稿できる機能。

チェックリスト

- ☒ 写真に対してコメントを投稿できる
- ☒ コメントの編集・削除ができる（自分のコメントのみ）
- ☒ コメントは時系列で表示される
- ☒ 絵文字入力に対応

チェック項目を追加する
コメントを追加... 送信

■ デイリースクラムでの使い方

デイリースクラムは15分以内で行う短い同期イベントです。Neoバックログの画面を共有しながら、スプリントゴールの達成状況やスプリントバックログアイテムのステータスを確認すると効率的です。

スクラム実践の流れ

STEP.1

プロダクトバックログを作る・育てる

STEP.2

スプリントプランニング

STEP.3

スプリント中の運用

STEP.4

スプリントレビュー

STEP.5

レトロスペクティブ

STEP.6

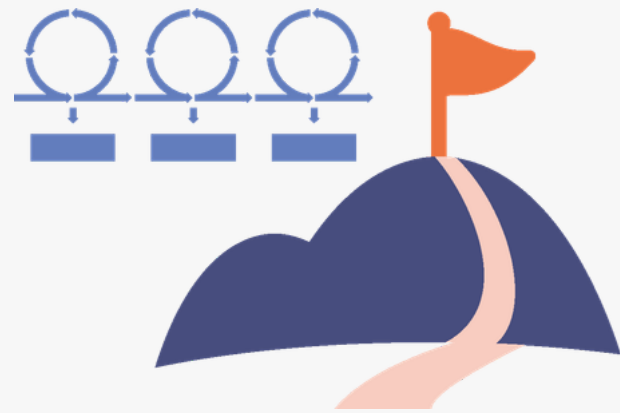
次のスプリントプランニングへ

スプリントレビューとは

プロダクトの成果をステークホルダーに見せ、フィードバックを得る場です。
「何ができたか」にフォーカスします。



スプリントゴールの 達成を確認する



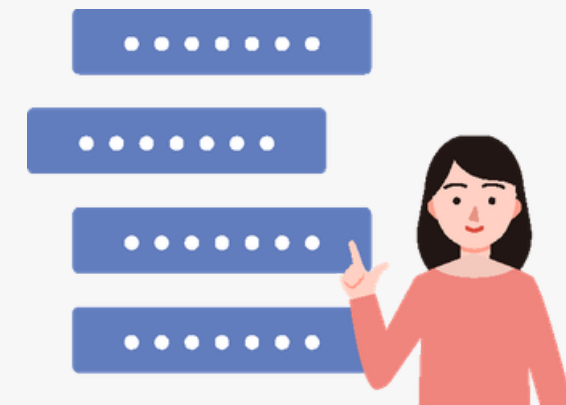
個々のPBIの完了状況だけでなく、「ゴールとして掲げた目的が達成できたか」を振り返ることが大切です。
ゴールを達成できたら、全員でお祝いしましょう！
チームやステークホルダーのモチベーションもアップします。

ステークホルダーから フィードバックを集める



実際に動くプロダクトをステークホルダーに見せて、フィードバックをもらいます。
市場の変化、ユーザーの反応、ビジネス上の優先度の変化など、チームの外にある情報を集める機会です。

優先順位の並び替えに 集中できる



ステークホルダーからの情報次第では、プロダクトバックログの更新も行いましょう。
新しいPBIの追加、既存PBIの優先順位の見直し、不要になったPBIの取り下げなど、プロダクトバックログを最新の状態に保ちます。

スクラム実践の流れ

STEP.1

プロダクトバックログを作る・育てる

STEP.2

スプリントプランニング

STEP.3

スプリント中の運用

STEP.4

スプリントレビュー

STEP.5

レトロスペクティブ

STEP.6

次のスプリントプランニングへ

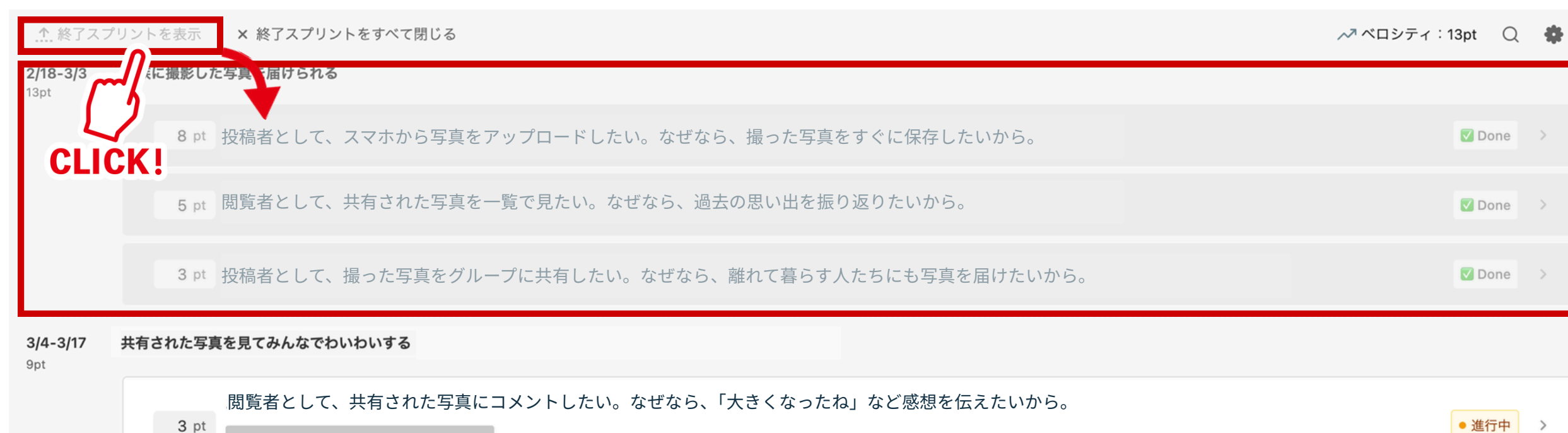
レトロスペクティブとは

レトロスペクティブは、チームの状態やプロセスをふりかえり、カイゼンする場です。
「どうすればさらにうまくやれるか」にフォーカスします。
Neoバックログには、直接レトロスペクティブを支援する機能はありません。
下記の情報を参考に、チームの業務プロセスを話し合ってみましょう。



過去スプリントを振り返る

画面上部の「終了スプリントを表示」をクリックすると、過去のスプリントが表示されます。
「前のスプリントを読み込む」でさらに過去にさかのぼれます。
完了したPBIや、そのスプリントでどれだけのポイントを消化したかを確認できます。



ベロシティの推移を確認する

各スプリントヘッダーに表示されるポイント合計を見ることで、スプリントごとの実績を把握できます。過去スプリントを確認するボタンから、ベロシティを確認できます。

↑ 終了スプリントを表示 | × 終了スプリントをすべて閉じる

ベロシティ: 13pt

3/18-3/3 13pt 前スプリントのベロシティ

- 8 pt 投稿者として、スマホから写真をアップロードしたい。なぜなら、撮った写真をすぐに保存したいから。 ✓ Done
- 5 pt 閲覧者として、共有された写真を一覧で見たい。なぜなら、過去の思い出を振り返りたいから。 ✓ Done
- 3 pt 投稿者として、撮った写真をグループに共有したい。なぜなら、離れて暮らす人たちにも写真を届けたいから。 ✓ Done

3/4-3/17 9pt 共有された写真を見てみんなでわいわいする

- 3 pt 閲覧者として、共有された写真にコメントしたい。なぜなら、「大きくなったね」など感想を伝えたいから。 ● 進行中

■ ベロシティが大きく下がっているとき、以下を確認し、レトロスペクティブの話題にしてみましょう。

見積もりは十分だったか

メンバー間に認識の
ばらつきはなかったか

チームメンバーの稼働
状況が変わっていないか

想定外の割り込みが多く
なかったか

スクラム実践の流れ

STEP.1

プロダクトバックログを作る・育てる

STEP.2

スプリントプランニング

STEP.3

スプリント中の運用

STEP.4

スプリントレビュー

STEP.5

レトロスペクティブ

STEP.6

次のスプリントプランニングへ

未完了PBIの扱い



過去スプリントの未完了PBI（クローズされていないもの）は、自動的に現在のスプリントに移動されます。

ただし、そのまま着手するのではなく、改めて優先順位を判断しましょう。

本当に次のスプリントでやるべきか、ゴールに沿っているかを確認し、必要に応じて並べ替えを行ってください。

新しいスプリント プランニングを始める

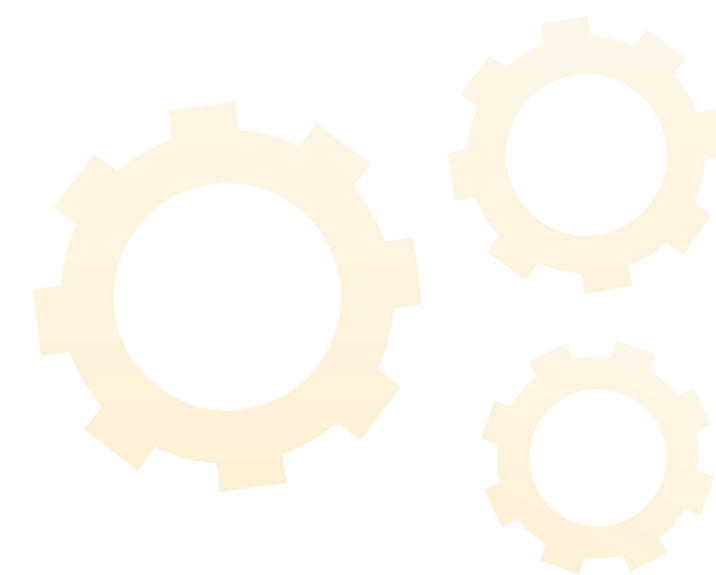


レビューやレトロスペクティブで得た気づきを踏まえ、再び「スプリントゴール案を準備する」から始めます。

スクラムはこのサイクルを繰り返すことで、プロダクトとチームを継続的に改善していきます。



【参考】事前準備



Neoバックログを使い始めるための3つの設定

1-1 権限の設定

システム管理者が「管理」メニューの「ロールと権限」で、対象ロールに「Lychee Neoバックログの管理」権限を付与します。

1-2 モジュールの有効化

プロジェクト設定 > モジュールタブで「Lychee Neoバックログ」にチェックを入れます。

1-3 スプリント期間と開始日の設定

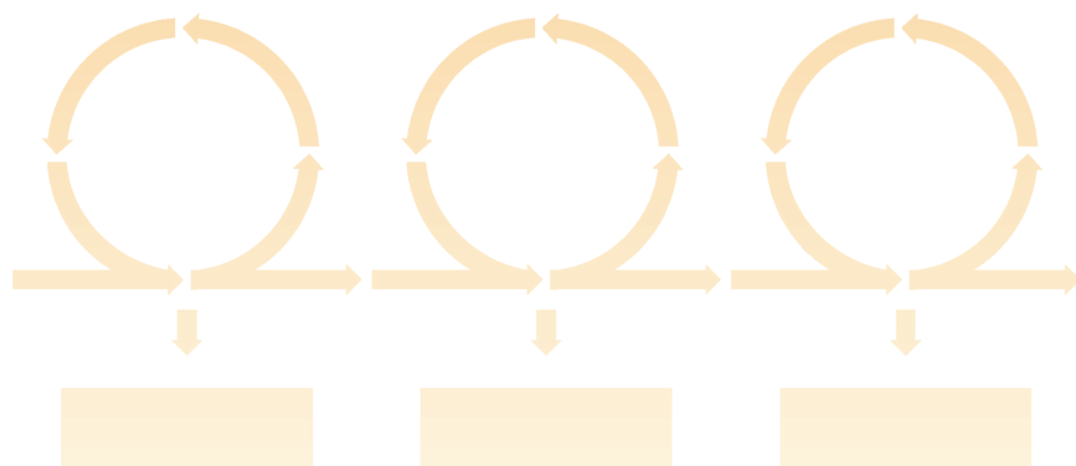
Neoバックログ画面、右上の歯車アイコンから「スプリント設定」を開き、以下を設定します。

設定すると、常に4つの未来スプリントが自動で生成・維持されます。
過去のスプリントは「終了スプリントを表示」で確認できます。

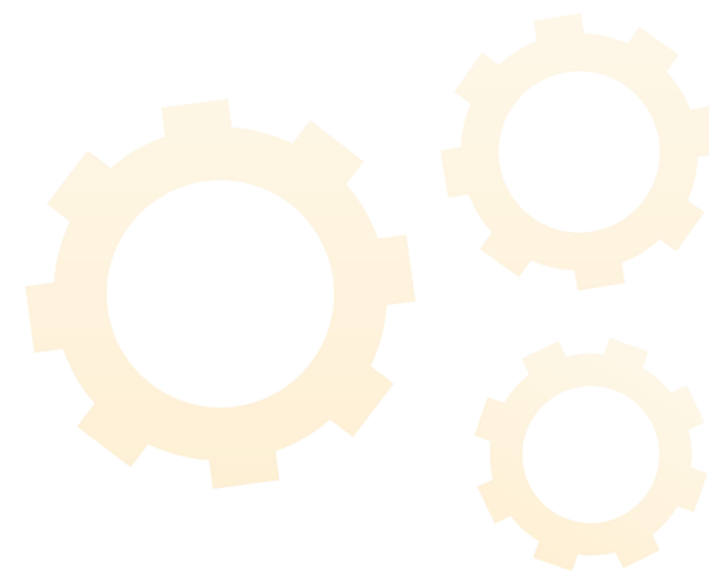


■ スプリント期間はどう決める？

スクラムガイドでは「1ヶ月以内」とされています。
短い（1週間）とフィードバックが速い反面、プランニングやレビューなどのイベントの頻度が増え、慌ただしく感じることがあります。
長い（4週間）と学習サイクルが伸び、ピボットの頻度も減ります。
業務内容や市場の状態、チームの熟練度に応じて選択してください。



スクラムを回し続けるための Tips



スクラムを回し続けるためのTips

スプリントゴールを設定する

ゴールがないと、スプリントが「タスクを上から消化するだけ」になりがちです。
ゴールがあることで、予想外の問題が起きたときに何を優先し何を諦めるかの判断基準になります。



デイリースクラムを「進捗報告会」にしない

デイリースクラムは、POへの報告の場ではなく、開発チームが互いの状況を同期する場です。
「昨日やったこと・今日やること・困っていること」の定型フォーマットに縛られすぎると、形骸化しやすくなります。スプリントゴールに対して「今日、チームとして何を調整すべきか」に焦点を当てると、15分の密度が変わります。



「完了の定義（Definition of Done）」を合意しておく

コードレビュー済み、テスト通過、ドキュメント更新など、
何ををもって「完了」とするかをチームで明文化しておきましょう。



スクラムを回し続けるためのTips

見積もりはチーム全員で行う

特定の人だけが見積もると、その人の経験やスキルに偏った数値になります。プランニングポーカーなどを使い、全員の認識を合わせながら見積もることで、精度が上がり、PBIへの理解も深まります。



大きすぎるPBIは分割する

スプリント内で完了できないPBIが残り続けると、成果が見えにくくなります。
目安として、チームのベロシティの半分を超えるようなPBIは分割を検討しましょう。



ポイントを「工数（時間）」として扱わない

ストーリーポイントはあくまで作業の「相対的な大きさ」です。
「1ポイント=〇時間」と換算し始めると、個人差が出て比較できなくなり、見積もりの意味が薄れます。
チームで基準となるPBIを1つ決め、「これと比べてどれくらいか」で合意しましょう。



ベロシティを上げることを目標にしない

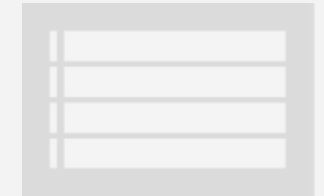
「前回30ポイントだから次は35を目指そう」とすると、チームは見積もりを水増しして帳尻を合わせるようになります。ベロシティはあくまで予測のためのツールです。



スクラムを回し続けるためのTips

バックログの手入りを怠らない

古いPBIが溜まると、プランニングのたびに「これ何だっけ？」が発生します。
週1回のリファインメントを習慣にして、上位PBIの具体化と不要なPBIの整理を行いましょう。



レトロスペクティブのアクションを放置しない

レトロスペクティブで改善策を出しても、次のスプリントで実行されなければ意味がありません。
「レトロスペクティブをやっても何も変わらない」が続くと、チームはレトロスペクティブ自体を無意味だと感じ始めます。アクションアイテムは具体的に（誰が・いつまでに・何をするか）決め、場合によってはスプリントに積んで実行する習慣をつけましょう。



株式会社アジャイルウェア

組織開発チーム アジャイルコーチ
／開発マネジメント

平川 隆仁

製造業界でのエンジニア職およびスクラムマスターの経験を経てアジャイル開発の奥深さを知る。組織体制にとらわれず、チーム本来の生産性を発揮できるワクワク組織を作るためにアジャイルウェアに入社。プロダクトオーナーや複数チームのスクラムマスターを歴任。企業規模の拡大に伴い Team. KAIZEN を立ち上げ、現在は組織開発チームとして人事と統合。全社のカイゼン活動をリードしながら、社内へのアジャイルマインドの普及を目指して活動している。アジャイル歴は約11年。

その他のコミュニティ活動: スクラムフェス大阪 実行委員、スクラム道関西スタッフ

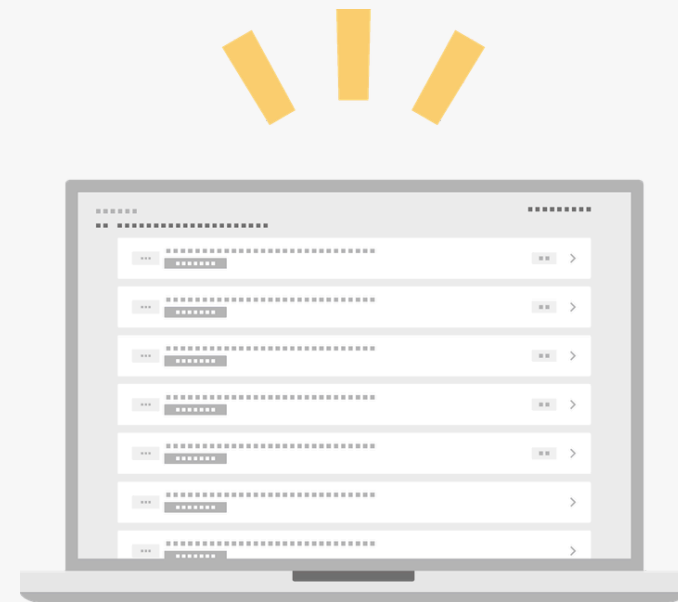


アジャイルコーチによる導入支援



ツールの導入だけでアジャイル開発が現場に定着するわけではありません。
Lychee Redmineでは、アジャイルコーチによる導入・定着支援の提供も開始し、
ツールと実践支援の両面から企業のアジャイル開発をサポートします。

ツールによる支援



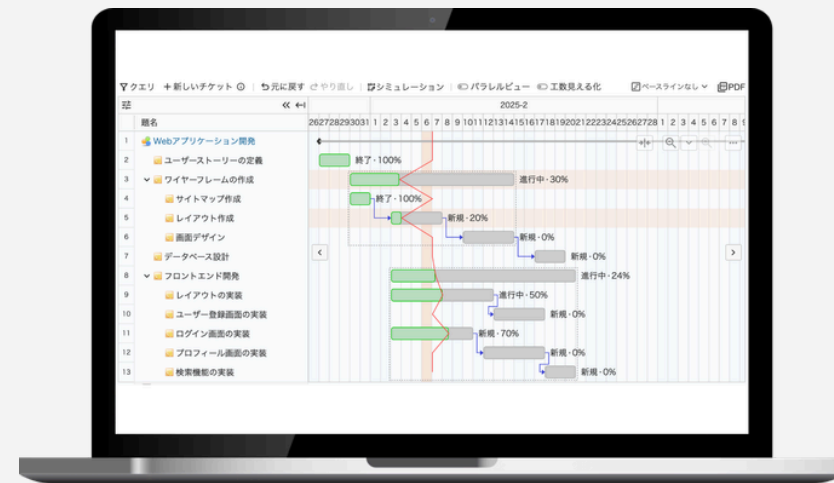
1社1社に合わせた アジャイルコーチング



お気軽にお問い合わせください。

まずは無料体験版をお試ください！

Lychee Redmine
30日間無料お試し



無料体験版を
今すぐ試す

もっと詳しく



Webサイトを
見る

お役立ち資料



お役立ち資料は
こちら





株式会社 アジャイルウェア  Agileware

アジャイルウェアホームページ : <https://agileware.jp>

LycheeRedmine導入のご相談 : <https://lychee-redmine.jp/contact>

お問い合わせ先 : <https://agileware.jp/contact/other-form>